

SHIRAKOBATO

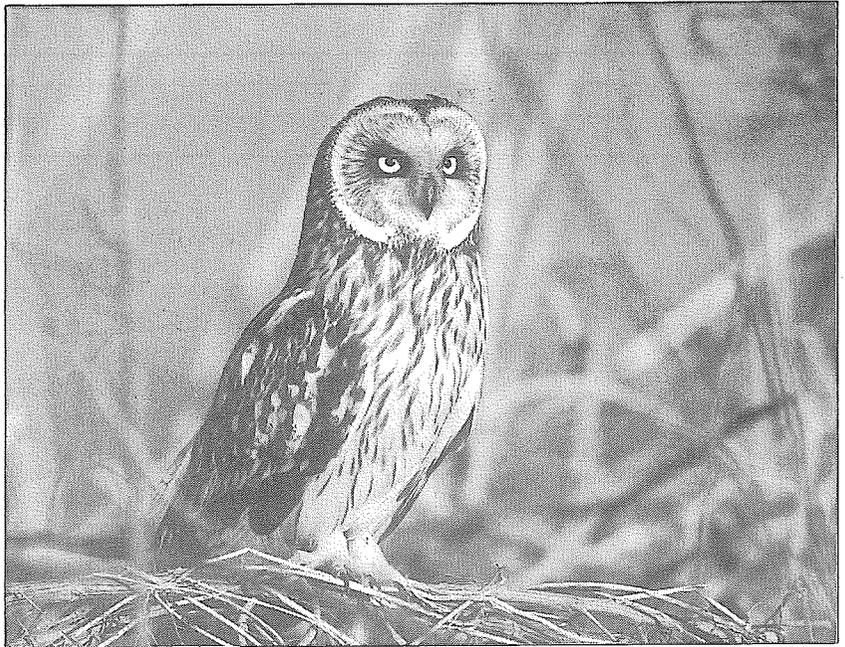
しらこぼと



1991. 2

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 81

日本野鳥の会 埼玉県支部



探鳥ごよみ

鳥見を何年も楽しんでいきますと、一年間の自分の鳥見行動パターンが決まってきます。それを月ごとに書き抜いたものが下の表で、**探鳥ごよみ**と名付けています。

作り方は、以前に出席した探鳥会の経験、『しらこぼと』の野鳥情報と行事報告、および私のフィールド・ノートからピックアップして作りました。したがって、探鳥ごよみと言っても、私の好みの鳥ばかりに偏向しており、また、付け足しの植物も鳥と同様、私の好みに偏向しています。

帯が太いところは、観察を集中して行う時期、あるいは安定して見ることが出来る時期です。細いところでも行けば見られますが、私自身があまり行動を起こさないだけです。つまり、帯の長さ・太さは私の行動頻度であって、鳥の生態とは必ずしも一致しているわけ

ではありません。まあ太い帯が重なる時期ほど、私がワクワク、ソワソワする時と言うわけです。

この自作の暦を見ながら、あれやこれやと**作戦**を立てます。2月なら「渡良瀬や菅生沼なら、まだまだハイロチュウヒ、チュウヒ、ノスリは確実だな。コショウゲンボウも大丈夫。オオタカもいるかもしれない。運が良ければハヤブサが…。今年は渡良瀬にはオジロワシは来たんだらうか。いやいや、それよりもやっぱりフクロウだな。そろそろ、良く鳴く頃だ。云々」というふうに。そして次の休日は、午前中は渡良瀬、午後から菅生沼、日没後フクロウ、という玉虫色の作戦を決行します。

休日を指折り数え、前日は天気が良からうと悪からうと観察道具と服装を全て枕元に置

1 月			2 月			3 月			4 月			5 月			6 月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
冬鳥調査												夏鳥調査					
カンカセ調査												シギ・チ調査					
渡良瀬・菅生沼												舳倉			日光		
												アオバスク			I町S公園		
フクロウ																	
オオコノハスク																	
															サンコンチョウ		
コミミズク															ブッポウソウ		
															アカショウビン		
						レンジャク									あけましておめでとうございます 		
						フクジュソウ											
						セツブンソウ											
						アズマイチゲ											
						キクザキイチゲ											
						カタクリ											
						ニリンソウ											
						キンラン、ギンラン											
												ヒトリシズカ					

ハシビロガモ幼鳥の記録

日時：1990年11月2日(金)午後4時20分

日はほとんど沈みかけていた。

場所：本庄市阪東大橋南詰めから下流約1.3 km、河川敷内の池（東西約50m、南北約20mの大きさ）北側の道端の枯草の中。

観察者：吉本富美子（清瀬市）、内田博子（小平市）、熊谷鉄雄（練馬区）

状況：自動車の中から、池にいたハシビロガモ♀タイプ1羽を観察していたところ、車のすぐ下に何かの幼鳥に見えるカモが1羽いるのに気がついた。車が止まったので身じろぎをしたのか、草をかいぐって車の所に来たのかは分からない。くちばしが大きく丸く目立った。全長約40cm、全体的に黒褐色。観察者3人でかわるがわる写真撮影、2分ほどしてノロノロ這って、くちばしを重そうに突っ込みながら、草の奥に入

委員会では、主としてSteve Madge and Hilary Burnの『WILDFOWL』の記述を参考にして、ハシビロガモの幼鳥と判断した。同所付近では、1988年にもハシビロガモ幼鳥と思われる個体が観察されたという投書が

『しらこぼと』同年12月号（第55号）5ページに掲載されている（町田好一郎）。しかし、同所付近をフィールドにしている町田・林両幹事によると、90年夏期にはその付近でハシビロガモの越夏個体が観察されたことはないとのことである。

今回撮影された個体が全長約40cmと比較的大きいことや、時期なども考えあわせると、同所で繁殖したとは考えにくく、ほかで繁殖した幼鳥が飛来したと判断するのが無理がないと思われる。繁殖した場所については、特定できる資料がない。



ハシビロガモ幼鳥（吉本富美子）

ウミアイサの記録

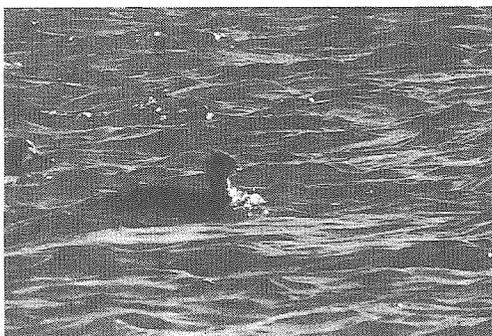
日時：1990年11月8日(木)午後1時10分～2時20分

場所：本庄市阪東大橋下流

観察者：井上幹男（深谷市）

天候：晴、強風。

状況：カモ類の群れの中にウミアイサ♀1羽とクロガモ♂1羽を発見、そのうちウミアイサについて写真撮影成功した。



ウミアイサ（井上幹男）

委員会で写真を検討し、ウミアイサ♀と同定しても差し支えないと判断した。

ウミアイサは、1978年埼玉県教育委員会発行の『埼玉県動物誌』に「越谷の宮内庁鴨場で目撃されたことがある」と記載があり、1985年11月には川越市伊佐沼で写真撮影された例があるが、県内での観察記録は少ない。

WANTED

昨年埼玉県内をさわがせたナベコウについての情報を求めています。せっかくの珍客ですので、出来るだけ正確な記録を残したいのです。

ほかの人が報告しているだろうからと考えずに、ともかく県内でナベコウを観察された方は、日時・場所・状況などを、当委員会までご連絡ください。写真撮影された方は写真もお願いします。

1990年秋

埼玉県のタカの渡り

日本野鳥の会埼玉県支部研究会

文献

小荷田行男 1986 1986年秋埼玉県のタカの渡り 第3回タカの渡りシンポジウム予稿集 日本野鳥の会兵庫県支部 神戸

埼玉県支部研究部 1988 1987年秋埼玉県のタカの渡り しらこぼと No. 46 P. 4 日本野鳥の会埼玉県支部 浦和

埼玉県支部研究部 1989 1988年秋埼玉県のタカ渡り しらこぼと No. 58 P. 4 日本野鳥の会埼玉支部 浦和

埼玉県支部研究部 1990 1989年秋埼玉県のタカ渡り しらこぼと No. 70 P. 4 日本野鳥の会埼玉県支部 浦和

海老原美夫 1990 タカの渡り調査報告 (10月10日天覧山) (コピー) 浦和

1990年秋のタカの渡り調査は、当初予定した9月30日は台風、次の日曜日の10月7日も雨が降り支部として組織的な調査は実施できなかった。このため、本小論は支部会員の9月23日と10月10日の観察結果をもとにして埼玉におけるタカの渡りについて簡単に述べる。

伊良湖岬をサシバの群れが渡るのは、10月10日がピークとされている。1988年から続けてきた調査データ(小荷田1986)(埼玉県支部研究部1988)(埼玉県支部研究部1989)

(埼玉県支部研究部1990)によれば、9月23日の鐘撞堂山はサシバの渡りの始めに当たる個体数で、10月10日のデータは埼玉における渡りのピークを過ぎた単独個体による渡りの結果と思われる(表)。

(執筆 小荷田行男)

表 1990年秋のタカの渡り

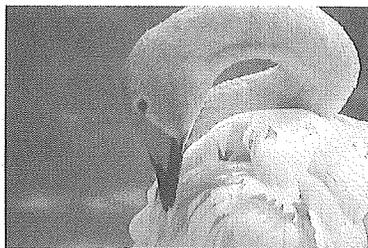
月/日	観察地点	天気	観察羽数	観察時間	観察者
9/23	鐘撞堂山 (寄居町)	晴	サシバ 19 ノスリ 1 ハチクマ 1 オオタカ 4 タカSP 1	8時30分~13時	森本 國夫 林 滋
10/10	天覧山 (飯能市)	快晴	サシバ 2 ハチクマ 1 ツミ 1 オオタカ 2	8時~12時	海老原 美夫 (海老原 1990)
10/10	金鑽神社 (鬼石町)	快晴	サシバ 1	9時45分~12時	森本 國夫

あけましておめでとうございます



平成三年元旦

あけましておめでとうございます



平成三年元旦

まま 野鳥情報

ハジロカイツブリ ◇12月9日、戸田市道満の荒川でカモの群れ中に1羽。荒川が増水していて、建設省の工事事務所に人に危険だということで退去を命じられ、早急に引き上げました（渡辺喜八郎）。

オオミズナギドリ ◇12月10日午後2時30分頃、本庄市の阪東大橋下流で2羽。「ゼツタイ」何か来る！と予想し、まだ風雨の激しいうちからスタンバイ。赤茶色の本流上空を2羽で互いにクロスしながら約2時間ほどフライトし西風をつかまえ、東方へ消える。くちばしのかぎ形、ピンクの脚、顔の黒斑が確認できた。やっぱり来た！（町田好一郎）。

アオサギ ◇11月15日、本庄市の阪東大橋下流の中州で28羽。他にコサギ25羽、ダイサギ10羽のサギの群れ。今日から狩猟解禁（井上幹男）。

マガン ◇12月4日午前7時20分、本庄市の阪東大橋下流で若鳥1羽。マガモの群れ中に大きい鳥が1羽。近づいてスコープで見

たらマガンの若鳥だった。午前中はオオタカが飛び回り、カモはにげ回るが、マガンはオオタカに見向きもしないで、どうどうとしたもの。午後は、豪快な水浴びも見せてくれた。ついでに写真も撮らせてくれてどうもありがとう（井上幹男）。

オシドリ ◇11月16日、鶴ヶ島町の高倉の池で♂1羽。2年ぶりに一カ月半ほど前からきています。エクリプスのときから見えますが、今とてもきれいです（宮内滋子）。

ホシハジロ ◇12月2日、日高町野新田の国有林の中の池で♂♀各2羽（宮内滋子）。

コスズガモ? ◇11月11日、戸田市道満貯水池でカモの群れ中に♀1羽。他に観察者あり。翌日にもさがしたが見当たらなかった（高橋達也）。

クロガモ ◇11月8日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽（井上幹男）。

ミコアイサ ◇11月17日、戸田市道満貯水池で1羽（高橋達也）。◇12月6日午前9時浦和市の白幡沼で♀1羽。当地では初めて（海老原美夫）。

ウミアイサ ◇11月8日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽（井上幹男）。

ハイロチュウヒ ◇11月13日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽（井上幹男）。

タゲリ ◇12月6日午前7時、桶川市川田谷の江川田んぼで33羽（立岩恒久）。

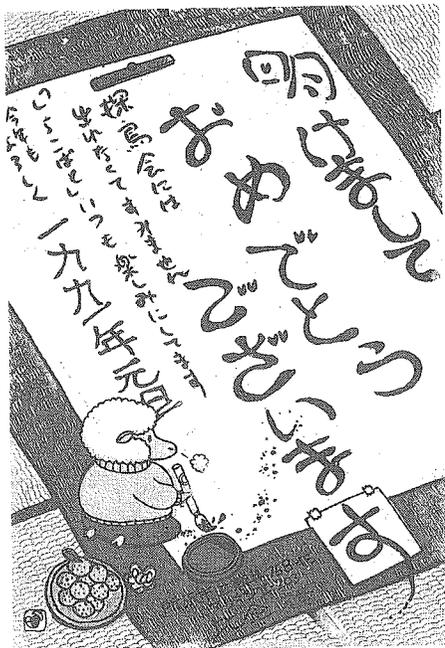
トウネン ◇11月22日、本庄市の阪東大橋下流でシロチドリ群れ中に1羽（井上幹男）。

ツルシギ ◇11月23日、浦和市三室の見沼代用水西縁の浦和市立病院から約200メートル上流で1羽（井上雅雄）。

アオアシシギ ◇10月29日、本庄市の阪東大橋下流で1羽（北川慎一）。◇11月6日、深谷市の上武大橋下流で1羽（井上幹男）。

クサシギ ◇11月23日、浦和市三室の見沼代用水西縁の浦和市立病院から約200メートル上流で2羽（井上雅雄）。

カモメ? ◇11月21日、戸田市の戸田橋付近の荒川で上流に飛ぶユリカモメ群れ中に成鳥1羽（高橋達也）。◇11月29日、本庄市の阪東大橋下流で10羽。流れに浮かび羽を休めていた（井上幹男）。



トラフズク ◇12月31日、戸田市道満で1羽落鳥。初列風切羽が3枚欠損していた。他に外傷がなかったことから、エサがとれないために死亡したものと思われる（登坂久雄）。

アマツバメ ◇11月12日、浦和市大崎の国昌寺付近で1羽（井上雅雄）。

アオゲラ ◇11月23日、浦和市三室の自宅付近で鳴き声を聞く（井上雅雄）。

コゲラ ◇12月16日、浦和市の常磐公園のケヤキに1羽（江原恵子・愛）。

コミミズク ◇12月10日午後4時30分、本庄市の阪東大橋下流の県民釣り場付近で1羽アシ原から舞い上がり、一気に本流を越えて、中州の草原へフライトする。その後、カラスに追われ、空中で器用に2回転スピンをしてブッシュに消える（町田好一郎）。

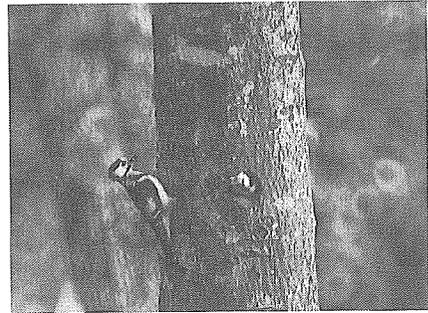
タヒバリ ◇11月6日、本庄市の阪東大橋下流で2羽。今冬の初認（井上幹男）。◇11月16日、鶴ヶ島町の高倉の林で1羽（宮内滋子）。

イソヒヨドリ ◇12月14日午前8時、熊谷市三ヶ尻の会社の駐車場で♂1羽。車の中から4～5メートルの近さでバッチリ確認。初めてみる鳥で、青と茶色のダンディーな姿に感激（菱沼一実）。

エナガ ◇11月16日、鶴ヶ島町の高倉の林で10羽（宮内滋子）。◇12月2日、日高町野新田の国有林の中の林で1羽（宮内滋子）。

ホオアカ ◇12月2日、桶川市川田谷の江川田んぼで♀1羽。今年もやって来てくれた（立岩恒久）。

オオジュリン ◇12月10日午後3時30分頃、本庄市の阪東大橋下流のアシ原で♂♀各1羽。アシの茎に止まり、パチパチと音を立てながら何かをついばんでいた（町田好一



迎春

旧年中はたいへんお世話になりありがとうございました。
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

平成三年 元旦



千葉 幸好・初子
春香 (11才)
剛 (10才)
愛子 (9才)

郎)。

アオジ ◇11月11日、三峰山で3羽（山岸昭治）。

アトリ ◇11月12日、三峰山で1羽（山岸昭治）。

イカル ◇11月16日、鶴ヶ島町の高倉の林で♂♀各1羽（宮内滋子）。◇11月17日午前8時30分、桶川市の自宅近くのイチョウの木に、3年ぶりに来て「イイコイル～」とさえずった（立岩恒久）。

フラミンゴ ◇12月2日夕方、本庄市の阪東大橋下流で1羽。群馬サファリワールドからエスケープして遊びに来ました。利根川にはいろんなのが来るもんだわい（町田好一郎）。

表紙の写真

1990 ネイチャーフォトコンテスト入選作

コミミズク (フクロウ科)

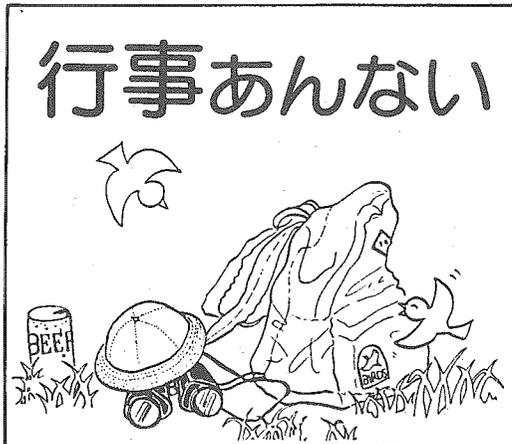
コミミズクは人間の存在を気にしないありがたい被写体だ。そっと座っているだけで、10メートルくらいの近いところを平然と通り過ぎて行き、望遠レンズが役に立たないこともあるくらいだ。

毎年、冬のコミミズクとのニアミスを期待したい。

1990年3月19日 妻沼町刀水橋付近

1000mm F8 1/250 F11 PKL

(市川計彦・川越市)



熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月10日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：00発または秩父鉄道
寄居8：52発に乗車

担当：諏訪隆久、岡安征也、林滋、町田好一
郎、逸見嶮、関口善孝、諏訪夕香子、
田口浩司、宮坂亨

見どころ：季節の変化、鳥の行動の変化。冷
たい風の中、動き始めた季節を感じと
って、鳥たちは行動開始、囀りを始め
たり、求愛ディスプレイをしたり—。
バレンタインデー間近、悩み多い方に
ぜひ見てほしい、鳥たちのけなげなラ
ブアタック作戦。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月10日（日）

集合：午前9時10分 西武線西武球場前駅

交通：西武池袋線秋津8：41発→西所沢で西
武狭山湖線乗換え8：57発→西武球場前
9：02着

担当：福井恒人、黒田佳子、三田長久

見どころ：湖面にキラリ、カムリカイツプ
リ。数十羽の群ともなると、見ごたえ



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予
約申込みの必要はありません。受付は探鳥会
当日です。参加費は一般100円、会員及び中
学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、
昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨
決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、
午後1時ごろになります。

◇フィールドマナー、いつも忘れないで◇

- ・鳥に近づきすぎたり、植物を採ったり荒ら
したりしないように。細く長いおつきあいを。
- ・ゴミは、家まで持ち帰りましょう。

充分。カモの種類も多く、時にはホオ
ジロガモやミコアイサも現われます。

長瀬町・長瀬探鳥会

期日：2月11日（月・祝日）

集合：午前10時 秩父鉄道長瀬駅

交通：秩父鉄道熊谷9：20発または東武東上
線川越8：53発に乗車

解散：午後2時頃、白鳥荘にて解散。

担当：林滋、諏訪隆久、町田好一郎、田口浩
司、宮坂亨、諏訪夕香子

見どころ：真冬の荒川の鳥たち。手の切れる
ような清流を元気に泳ぐオンドリ。冷
たい水に飛び込むヤマセミ君。みんな
寒くないのかな？ 一般向き2.5kmの
コースを歩きます。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月11日（月・祝日）

集合：午前7時20分 丸山公園北口駐車場

交通：高崎線上尾駅西口1番バス乗り場から
上尾車庫行き7：03発→終点下車

解散：午前9時頃

担当：乗田実、赤瀬征雄、松井昭吾、立岩恒
久、河辺達朗

見どころ：冬こそ早朝探鳥会。誰もいない公
園、霜柱サクサク踏みゆけば、カワセ
ミを至近距離で見られたり、恥ずかし
がり屋のウグイスやアオジとぼったり
顔を合わせたり— 楽しいことが色々
ありそうです。

群馬県・裏妙義探鳥会

期日：2月16日(土)

集合：午前9時20分 信越本線横川駅

交通：大宮6：56発各停または大宮7：35発
新特急谷川1号に乗車、高崎で8：39
発各停に乗換え。

担当：小林みどり、松井昭吾

見どころ：イヌワシ、2年連続出現なるか？

去年は、参加者全員、お弁当をイヌワシにのぞかれました。さて、今年は？
国民宿舎までの道で出会う小鳥たちや、
妙義湖のオンドリも楽しみ。

注意：最低5キロは歩きます。しっかりした
靴でお越し下さい。防寒対策も十分に。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：2月17日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東
口(集合後、バスで現地へ)または午
前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚
正義、伊藤芳晴、笠原伸子

見どころ：歌い始めた里の鳥。冬の間の沈黙
を破って、ヒバリが、ホオジロが、シ
ジュウカラが、そろそろ囀り始める頃。
陽だまりには、ぼつりぼつりとオオイ
ヌフグリ。ちょっと早めの春気分。

滑川町・森林公園探鳥会

期日：2月17日(日)

集合：午前10時 森林公園南口

交通：東武東上線森林公園駅から東武バス森
林公園南口行き9：42発に乗車、南口
下車。

費用：参加費の他、入園料(360円、子供80
円)が必要です。

担当：諏訪隆久、森本國夫、榎本秀和、岡安
征也、橋本博夫、逸見嶮、田口浩司。

見どころ：ちょっと珍しい鳥、ここなら見ら
れます。決して“珍鳥”ではないけれ
ど、なかなか会えない小鳥たち—シロ
ハラ、ルリビタキ、キクイタダキとい

った連中が、広大な公園のあちらこち
らで、あなたを待っています。

本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：2月24日(日)

集合：午前9時 高崎線本庄駅北口

担当：町田好一郎、林滋、小淵健二、諏訪隆
久

見どころ：利根の川原のバードランド。10種

近くのカモ類、ハヤブサなどのワシタ
カ類、時折現われるビッグ・スター。
情報発信地・阪東大橋に、今回は、関
東ブロック会議に参加した各地の支部
のメンバーも集まります。

お知らせ：トイレが出来ました。これで安心
して、ゆっくり鳥が見られますね。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月23日(土)

会場：支部事務局(浦和駅西口を出て左側、
三菱信託銀行と日建ハウスの間を入っ
て進み、信号ひとつ渡ってY字路の右、
茶色5階建マンション1階=徒歩5分)
案内：支部報『しらこぼと』の発送作業をお
手伝いしていただく集まりです。

野鳥写真クラブ定例会

とき：2月23日(土)午後3時～5時ごろ

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：袋づめの作業の後は、室内探鳥会でお
楽しみ下さい。

長野県・軽井沢探鳥会

期日：3月3日(日)

集合：午前9時10分 信越本線中軽井沢駅前
交通：高崎線大宮6：42各停に乗車、高崎で
特急に乗換え、または大宮7：22発特
急あさま1号に乗車。

費用：タクシー代若干をご用意下さい。

解散：現地にて午後3時頃。

担当：福井恒人、松井昭吾、林滋。

見どころ：赤い鳥求めて、雪景色の中を歩く。
ベニマシコやヒレンジャク。白銀の世界
では、また一段と色が冴える。防寒
と足ごしらえは厳重に。

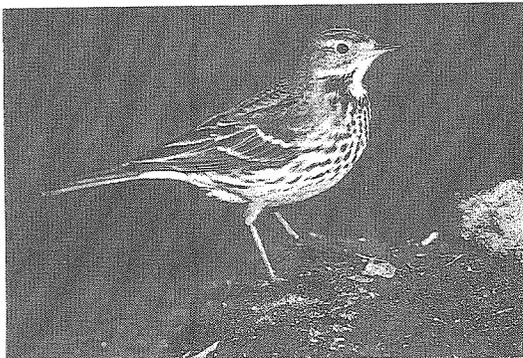
行事報告

11月23日(金、休) 桶川市 川田谷

人 27人 天気 晴 鳥 ダイサギ コサギ
 マガモ コガモ オオタカ キジ バン タ
 ゲリ クサシギ タシギ キジバト ヒバリ
 ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
 モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス セ
 ッカ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ
 スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボ
 ソガラス ハシブトガラス(29種) 始まる前
 から最後まで、お目当てのタゲリが何羽も姿
 を見せてくれた。天気は良いし、ポカポカだ
 し、心ウキウキの探鳥会。江川では、ちょう
 どキジの♀が何羽も川を飛越して、こちら側
 の茂みに隠れる様子を見られたし、コガモも
 数が多かった。斜面林やアシ原では、冬場の
 里の鳥が一通り登場し、オオタカの勇姿も健
 在。しかし、湿地の埋立てなどの工事が進む
 現在、やがてはこの場所を追われることにな
 る彼等は、いったいどこに行くのだろうか。

12月1日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 14人 作品発表した人 2人



タヒバリ (海老原美夫・浦和市)

12月1日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 荒木恒夫、何森要、岩
 波勇一、海老原教子、海老原美夫、角田真喜

子、登坂久雄、中村治、馬場昇、藤野富代、
 吉田二三子(11人)

12月2日(日) 北本市 石戸宿

人 35人 天気 快晴 鳥 カワウ オオタ
 カ ノスリ ハヤブサ コジュケイ キジ
 ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ セ
 グロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタ
 キ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオ
 ジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズ
 メ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガ
 ラス ハシブトガラス(27種) 台風一過の前
 日の晴天が、この日も続く。風は多少あった
 が、日だまりでは汗ばむほどの上天気。スタ
 ート早々、青空の高みにカワウの大群が現わ
 れ、喜ばせてくれた。期待したとおり猛禽は
 3種。この日現われたどの鳥もどの鳥も、順
 光に輝いて本当に美しかった。病院ができて
 一変したとは言え、まだまだ自然が色濃く残
 っている石戸宿の、晩秋の風情を皆で堪能す
 る半日だった。

12月9日(日) 越生町 麦原・山入地区

人 20人 天気 曇後晴 鳥 コサギ キジ
 バト カワセミ コゲラ キセキレイ セグ
 ロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
 ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ
 シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダ
 カ アオジ カワラヒワ イカル スズメ
 ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブ
 トガラス(25種) 初めてのコース。バスを降
 りて歩き出すと、ホオジロもシジュウカラも
 一段と色鮮やか。キセキレイだ、あ、エナガ
 の群れだ、こっちはコゲラだ……。最後の
 紅葉、ユズの収穫風景、穏やかな山里の景観
 を楽しみながら沢沿いの道を登り、急な山道
 をひと登りしてからお弁当。目の前の柿の木

にメジロが来たぞ。

ヤマガラなどを不法飼育している家があり、福井鳥獣保護員が指導をする一幕も。最後のクライマックス、カワセミを堪能してから、厚生年金休暇センターでコーヒーを飲みながら帰りのバス待ち。今後定着しそうなテストウオーク探鳥会だった。

12月9日(日) 熊谷市 大麻生

人 44人 天気 曇時々晴 鳥 カイツブリ
カウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ キジ イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) この日は、リーダーの私にとって大きな発見があった。探鳥会を始めてしばらくした頃、大麻生の北方の上空を50羽位のカウが、北西方向に飛んで行った。多分、数から想像すると、朝の下見のときに大麻生河原から飛び立って上空を旋回していたグループだと思う。この日までリーダー氏は、カウは川に沿って移動するものだと思っていたが、大麻生から阪東大橋へ移動しているのかもしれない。

12月16日(日) 滑川町 森林公園

人 64人 天気 曇 鳥 カイツブリ オシドリ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ホシハジロ チョウゲンボウ コジュケイ キジ キジバト コゲラ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 山田大沼が工事のため西田沼、長沼、栗谷沼とその周りの森を観察した。森の中の長い道を歩いて行った長沼では、オシドリやトモエガモ。栗谷沼では、カルガモの中を1羽寂しく泳ぐホシハジロ。森の中を飛回る小鳥たち。

今回はいつものコースにない、秘境森林公園を楽しんでもらえたと思う。

12月16日(日) 浦和市 三室地区

人 43人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ コジュケイ キジ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ シラコバト キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 北宿通りの東側の芝川が工事中だったので、南側の芝川沿いを歩いた。初出現のホオジロガモを含めて7種ものカモが出たのは初めてで、シラコバトやキジの出現とともに、参加者を非常に喜ばせた。1年の最後の三室の探鳥会も、次の年への夢をふくらませて終わった。いつまでも、みんなで力を合わせて、この自然を残したい。

12月22日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、遠藤薫、角田真喜子、河辺達朗、草間和子、嶋田和江、中村治、藤野富代、森静子、吉田二三子 (12人)

12月22日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 15人 作品発表した人 3人



カワアイサの親子・ストックホルムにて
(林慎一・大宮市)



求む！ボランティア

研究部では、昨年冬まで、5年間にわたって、会員の皆様のご協力により、夏鳥・冬鳥の県内分布調査を実施してきました。

現在は、その結果を報告書にまとめて発表するための作業の一段階として、寄せられた情報をデータベース化するため、パソコンに入力していますが、情報の量が多いため、人手が不足しています。

NECのPC98シリーズ、もしくは、エプソンの98互換機による入力作業に協力してくださる方がいらっしゃいましたら、森本（☎、夜9～11時）までご連絡ください。

関東ブロック会議開催

年に2～3回のペースで、関東地区内の各支部代表が集まって、様々な話し合いをする関東ブロック会議、今回は埼玉県支部の担当で、2月23日（土）～24日（日）の2日間、児玉郡神泉村の村営・下久保コテージを会場として開催します。

今後の関東ブロック会議の進むべき方向について話し合われる予定です。

2日目の24日（日）には、会議出席者たちは、当支部の阪東大橋探鳥会に合流します。

写真展「博物館周辺の鳥たち」

毎月定例の三室地区探鳥会に後援をいただいている浦和市立郷土博物館が、写真展を企画、当支部も協力して、ただいま開催中。

1月19日（土）～2月17日（日）（月曜日と国民の祝日は休館） 午前9時～午後4時30分 入場無料

支部会員の作品30枚を展示。見沼田んぼで観察される代表的な鳥たちです。

期間中、楠見幹事による講演会も予定されています。

2月の土曜日当番（2時～6時）

- 2月2日 諏訪隆久 林 滋
- 2月9日 杉本秀樹 渡辺 敦
- 2月16日 山部直喜 海老原美夫（編集会議）
- 2月23日 小林恒雄 海老原教子

ご寄付ありがとうございました

神山和一郎 4,000円、忘年会参加者 7,638円。（50音順、敬称略）

会員数は

1月7日現在 1,492人です。

活動報告

12月8日 編集部会議（12月号の反省、1月号の編集作業、印刷所へ入稿）。

12月15日 研究部会議。

12月16日 役員会議（司会：榎本秀和、各部の報告・探鳥会の日程・評議員会出席者・関東ブロック会議の運営・『日本の探鳥地777』の書き直し作業・その他）。

12月22日 野鳥記録委員会。

12月25日 『しらこぼと』1月号を郵便局から発送（事務局）。

1月7日 関東ブロック会議への招待状を、関東地区全支部に発送（事務局）。



編集部に大きな変化があった。

毎夜帰りが遅く、なかなか電話が通じなかったヤマベズク編集部長に、イッパツで電話が掛かるようになったのだ。結婚して、生活パターンが変わったらしい。

『しらこぼと』の編集作業も、今後さらにスムーズに進むにちがいない。ご期待ください。かな？（海老原美夫）

『しらこぼと』1991年2月号（第81号） 定価 100円（会員の購読料は会費に含まれます）

発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062

〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

（本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）